

難題克服シリーズ① 1級実技（面接）試験 気づきを促す質問法を強化する講座

1級合格を目指す方の気づきが促せるようになる講座						
東京	2026年10月3日(土)	9:30~16:30	会場：全労連会館 御茶ノ水	受講（税込）	会員：23,000円	一般：25,000円
内容	本講座は1級実技（面接）試験において、合格のための難関の一つとされる「気づきを促す質問や投げかけ」をメインテーマにしたものです。1級実技試験の問題把握は、次の2つの内容があります。すなわち、事例相談者の訴える問題（事例相談者視点の問題）の把握と事例相談者は気づいていない面談技法上のクセや偏り（事例指導者視点の問題）の把握です。 「評価区分」の「問題把握力」は、この2つをロールプレイと口頭試問で試験官に伝えることによって、「所要点」をクリアできます。このうち、「事例相談者視点の問題」は、事例相談者の話を傾聴すれば話してくれますので、それを試験官に確実に伝えると加点されます。これに対し、「事例指導者視点の問題」は、事例相談者が気付いていない面談のやり方の「クセや偏り*」（傾向）ですので、事例指導者が問題を見立て、それに気づいてもらうための働きかけをしないと、明確にはなりません。 そこで、「指導者視点の問題」を的確に把握するためには、「見立て」に対して、事例相談者に「気づきを促す」必要があります。そのためには、まず、事例相談者の話を傾聴することで関係構築を深め、そのうえで、目の前の事例相談者がどのような技法上の問題（課題）を抱えているかを「見立て」、それに気づいてもらうための「質問技法」が不可欠です。（*「クセや偏り」とは厚労省の表現です。） 講座では、過去の本試験ケースを分析し、最初に、事例相談者の心情や認めてほしい、承認してほしいところなどを把握し、事例相談者との関係を深めるポイントを浮き彫りにします。その後、事例相談者の面談の進め方のタイプを見極めて、どのような問題があるかを「見立て」、それに気付いてもらうためどのように質問技法（オープン・クローズ等）を用いていくかを実践していきます。 傾聴不足に気がつく質問や、傾聴の意味を理解していない場合の投げかけ、問題にはGL視点やCG視点があることに気づきを促す質問や投げかけなど、具体的な事例を使って、対応の「引き出し」を増やしていきます。 午前中で、気づきを促す質問を理解し、午後はそれを前提にロールプレイを行います。 1回のロープレについて、必ず当会の講師からフィードバックを差し上げますので、10月中に苦手意識を払拭してください。					

受講することで、理解し身につく内容	
2年目の事例相談者はなにが理解できない役を演じているのか	代表的なキャリアコンサルタント視点の問題には何があるかを理解し、それに気づきを促がす、自分らしいいくつかの質問や手立てがもつことが出来ます。
事例相談に気づきを与えるような質問が考えられるようになり、目標に合意してもらえようになる。	この事例相談者には〇〇が不足していると見立てられれば、気づきを促す質問がたくさん考えられ、合意を得ることができるようになります。